|  |
| --- |
| マルクス主義経済学講座（p.73） |
| 第2章　交換過程、貨幣または商品流通 | 要するに…！ |
| 第1章（商品－Ⅰ商品の二つの要因――使用価値と価値、Ⅱ商品に示される労働の二重性、Ⅲ価値形態、Ⅳ商品の物神性とその秘密）において、商品は二重の観点（使用価値、交換価値）から一面的あるいは分析的に考察されてきた。商品は使用価値と交換価値との直接的な統一である。同時にそれは、他の諸商品にたいする関係でだけで商品である。諸商品相互の現実的関係は、それらの交換過程である。 | ・商品は「使用価値と交換価値の直接的な統一」であるが、他方、商品相互の現実的関係は交換過程にあり、マルクスはこの立場から交換過程に独立の章をあたえた。 |
| 貨幣論は価値形態と交換過程の両方で展開されている。価値形態論（第1節）では「貨幣の本質」「貨幣形成の必然性」を分析している。貨幣が「どのようにして形成されるか」、いいかえれば貨幣発生の理論的必然性の解明である。交換過程論（第2節）では貨幣が「なにによって形成されるのか」分析している。いいかえれば貨幣発生の現実的必然性が解明される。 | ・交換過程の貨幣論は、価値形態論を補完する地位にある。・価値形態論は物と物との交換。人間は登場しない。交換過程論で初めて商品をつくり、商品を売る人間が登場する。 |
| 交換過程における「商品の使用価値と価値の統一」の矛盾のあらわれ方（p.153）だから、諸商品は、みずからを使用価値として実現しうるまえに、価値としてみずからを実現しなければならないのである。（p.154）他面では、商品はみずからを価値として実現しうるまえに、みずからを使用価値であることを実証しなければならない。一商品はなんらかの欲望が満たされる人にだけ使用価値として譲渡される。したがって使用価値としては商品の交換が問題になるのは、特殊な欲望との関係においてだけである。価値としては、商品が交換されるのは、対象化された労働時間の等しい量としてだけであり、商品の自然的属性（欲望を満たす）は消え失せている。〔商品所有者の立場からの整理〕どの商品所有者も、自分の欲望を満たす使用価値をもつ他の商品と引きかえにでなければ、自分の商品を手放さない。その限りでは交換は個人的過程である。　　　　　　他方、商品所有者は自身の商品を価値として実現しょうとする。自分の気に入った同じ価値の他の商品があればその所有者にとって彼自身の商品が使用価値をもっているかどうかにかかわりなく、どれででも実現しようとする。その限りでは、彼にとって。交換は一般的社会的過程である。p.135　はじめに行為ありき。考えるまえにすでに行動していた。p.155　一般的等価物であるということは、社会的過程によって、この排除された、商品を特別な社会的な機能となる。こうしてこの商品は——は貨幣となる。u商品B　　　　　　　　　　　v商品Cw商品D　　　＝ｚ商品Aⅹ商品E…………z商品A　u商品Bv商品C　　　＝ⅹオンスの金w商品D　　　…………貨幣が形成されると、商品所有者は彼の商品をいっきょに任意の商品と交換しないで、まず一般的等価（あらゆる商品と直接に交換が可能な形態としての貨幣と交換し、そののち、この貨幣を彼の欲する任意の他の商品と交換するようになる。こうして諸*商品の*全面的な交換は、貨幣の媒介によってはじめて可能となり、物々交換のもつ、時間的、場所的、個人的諸制限が打破される。p.160「金銀はうまれながらにして貨幣ではないが、貨幣は生まれながらにして貨幣である。」金銀の自然属性が貨幣の機能にもっとも適していた。 | ・商品の持ち手の交換が商品の交換である。・使用価値の証明は「他人の要求を満足させる」ことだが、それは交換してみなければわからない。矛盾である。・所有者が商品を売り物にするのは他人にとって使用価値があること。所有者にとっては直接にはただ交換価値の担い手である。・どの商品所有者もみな同じ立場に立っている。価値形態論に引き戻せば、どの商品所有者にとっても、他人の商品はどれも自分の特殊的等価物とみなされ、したがって自分の商品はすべて他人の商品の一般的等価物みなされる。・商品所有者の自然的本能が商品本性の諸法則を実証することになった。まとめ　使用価値と価値の直接的統一としての商品の矛盾の交換過程におけるは発現と矛盾は、この矛盾を解決する貨幣の形成の必然性の解明にほかならない。この解明が交換過程論の中心。質の一様性任意に細分・合成高い価値比重耐久性 |
| 交換過程論の諸注意点p.160　貨幣商品の価値は二重化する。①実生活に役立つという使用価値。入れ歯、装飾具。②「何とでも交換できる」という形式的な使用価値。 |  |
| p.161　交換過程は、この過程が貨幣に転化させる商品に、その価値を与えるのではなくて、その独特な価値形態を与えるのである。この二つの規定の混同は、金銀の価値を想像的なものとみなす誤った考えを生み出した。p.164たとえば10重量ポンドの金の価値がどれだけであるかはわからない。どの商品もそうであるように、貨幣はそれ自身の価値の大きさを、ただ相対的に、他の諸商品によってのみ、表現することができる。貨幣自身の価値は、その生産のために必要とされる労働時間によって規定され、等量の労働時間が凝固した、他の各商品の分量で表現される。貨幣の相対的価値の大きさこうした確定は、その産源地での直接的交換取引のなかで行われる。それが、貨幣として流通にはいるときには、その価値はすでに与えられている。p.166　人目をくらますようになった商品物神の謎……。ある一つの商品は他の諸商品がそれらの価値をその一商品によって全面的に表示するから、はじめて貨幣になるのだとは見えないで、むしろその逆に、その商品が貨幣であるからこそ、他の諸商品はその商品で一般的にそれらの価値を表示するかのように見える。媒介する運動はそれ自身の結果のうちに消失して、なんの痕跡も残さない。 | 「困難は、貨幣が商品だということを理解することにあるのではなく、どのようにして、なぜ、なにによって商品は貨幣であるのかを理解することにあるのである」　金は生まれながらにして貨幣であるというのは誤った仮象である。　　　　　　　　　　　了 |